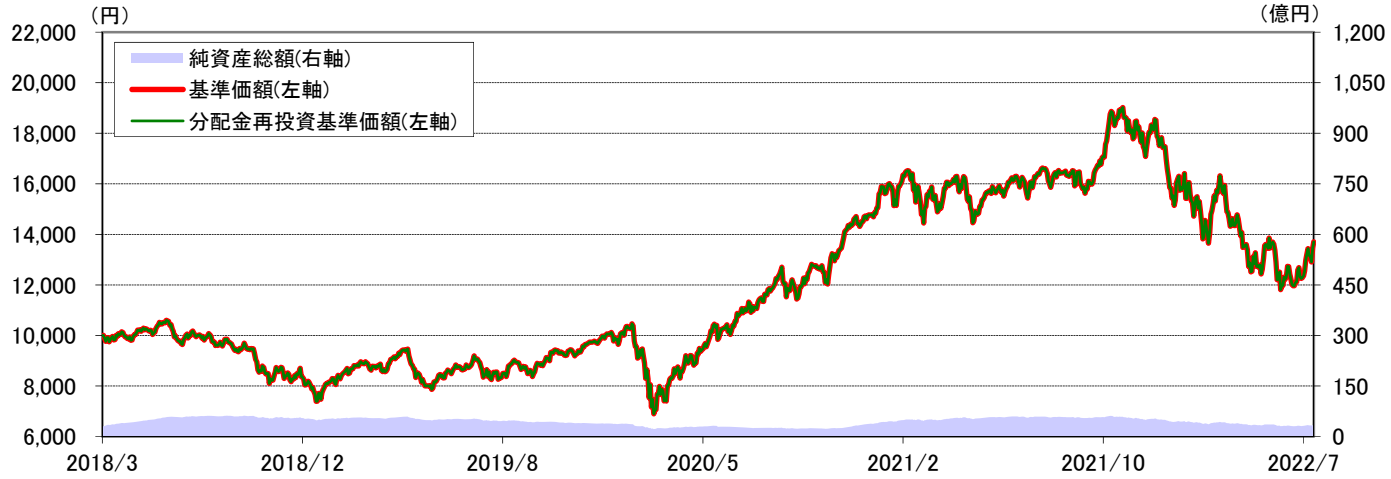
設定・運用は 岡三アセットマネジメント
お客様専用フリーダイヤル ： ０１２０－０４８－２１４
当社ホームページアドレス ： https://www.okasan-am.jp

次世代モビリティオープン（為替ヘッジあり）／（為替ヘッジなし）

追加型投信／内外／株式

為替ヘッジあり

設定来の基準価額の推移



※基準価額は1万口当たり、作成基準日現在、年率1.804%（税抜1.64%）の信託報酬控除後です。
※分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。
※グラフは過去の実績であり、将来の成果を示唆または保証するものではありません。

基準価額	13,702 円
純資産総額	34.2 億円

※基準価額は1万口当たりです。

騰落率

	1ヵ月前	3ヵ月前	6ヵ月前	1年前	3年前	設定来
分配金再投資基準価額	12.04%	1.34%	▲ 10.78%	▲ 15.85%	52.50%	37.02%
参考指数	4.67%	▲ 2.69%	▲ 8.09%	▲ 9.79%	22.66%	32.45%

※騰落率は、1ヵ月前、3ヵ月前、6ヵ月前、1年前、3年前の各月の月末および設定日との比較です。
　参考指数の騰落率は、当該日前営業日の現地終値を基に算出しております。
※分配金再投資基準価額の設定来騰落率は、1万口当たりの当初設定元本との比較です。
※参考指数は、MSCI オール・カントリー・ワールド・インデックス（現地通貨ベース）です。
※参考指数の騰落率は、Bloombergのデータを基に岡三アセットマネジメントが算出しております。
※MSCI指数はMSCI Inc.が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に
　帰属します。またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

最近5期の分配金の推移

2019/03/11	0 円
2020/03/10	0 円
2021/03/10	0 円
2022/03/10	0 円
設定来合計	0 円

※分配金は1万口当たり、税引前です。
　運用状況等によっては分配金額が
　変わる場合、或いは分配金が支払
　われない場合があります。

ポートフォリオ構成比率

株式	92.8%
（内国内株式）	(3.3%)
（内外国株式）	(89.5%)
（内先物）	(0.0%)
外国不動産投信	0.0%
短期金融商品その他	7.2%
マザーファンド組入比率	96.4%
組入銘柄数	46 銘柄

※マザーファンドを通じた実質比率です
　（マザーファンドの組入比率を除く）。

為替ヘッジ比率	93.5%

※為替ヘッジ比率は、作成基準日の当ファンドの外貨建資産
　に対する率です。

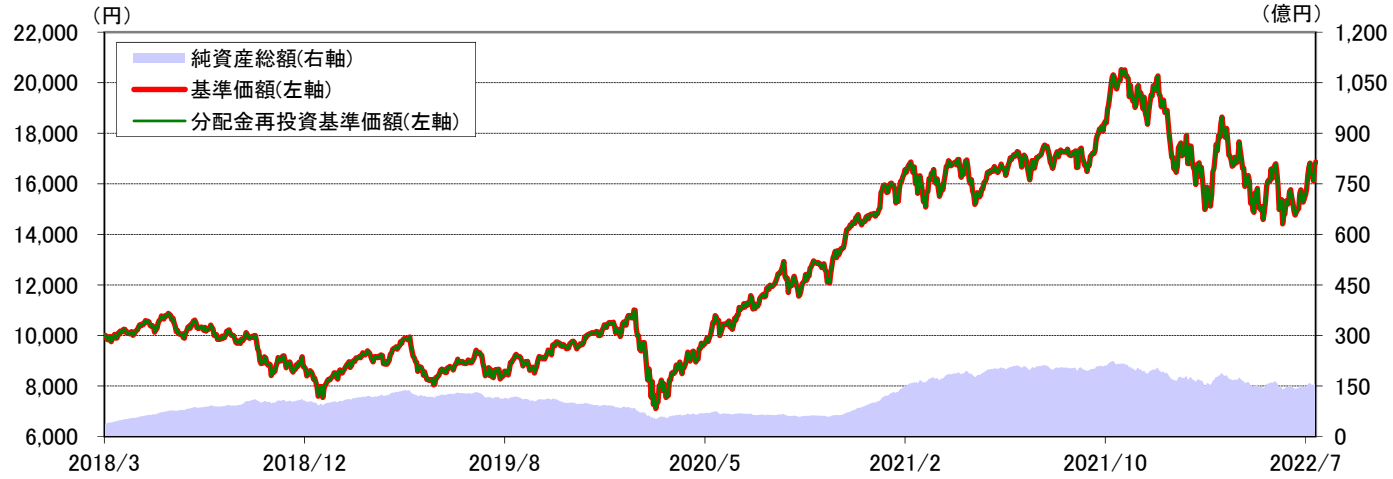
岡三アセットマネジメント

次世代モビリティオープン（為替ヘッジあり）／（為替ヘッジなし）

追加型投信／内外／株式

為替ヘッジなし

設定来の基準価額の推移



※基準価額は1万口当たり、作成基準日現在、年率1.804%（税抜1.64%）の信託報酬控除後です。
※分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。
※グラフは過去の実績であり、将来の成果を示唆または保証するものではありません。

基準価額	16,862 円
純資産総額	158.6 億円

※基準価額は1万口当たりです。

騰落率

	1ヵ月前	3ヵ月前	6ヵ月前	1年前	3年前	設定来
分配金再投資基準価額	10.53%	5.03%	1.03%	▲ 1.05%	82.55%	68.62%
参考指数	2.71%	1.08%	4.44%	6.04%	47.84%	59.28%

※騰落率は、1ヵ月前、3ヵ月前、6ヵ月前、1年前、3年前の各月の月末および設定日との比較です。
　参考指数の騰落率は、当該日前営業日の現地終値を基に算出しております。
※分配金再投資基準価額の設定来騰落率は、1万口当たりの当初設定元本との比較です。
※参考指数は、MSCI オール・カントリー・ワールド・インデックス（円換算ベース）です。
※参考指数の騰落率は、Bloombergのデータを基に岡三アセットマネジメントが算出しております。
※MSCI指数はMSCI Inc.が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

最近5期の分配金の推移

2019/03/11	0 円
2020/03/10	0 円
2021/03/10	0 円
2022/03/10	0 円
設定来合計	0 円

※分配金は1万口当たり、税引前です。
　運用状況等によっては分配金額が変わる場合、或いは分配金が支払われない場合があります。

ポートフォリオ構成比率

株式	93.4%
（内国内株式）	(3.3%)
（内外国株式）	(90.1%)
（内先物）	(0.0%)
外国不動産投信	0.0%
短期金融商品その他	6.6%
マザーファンド組入比率	97.0%
組入銘柄数	46 銘柄

※マザーファンドを通じた実質比率です
　（マザーファンドの組入比率を除く）。

岡三アセットマネジメント

次世代モビリティオープン（為替ヘッジあり）／（為替ヘッジなし）

追加型投信／内外／株式

次世代モビリティマザーファンドの状況（1）

＜株式組入上位10銘柄＞

	銘柄名	業種	国・地域	比率	銘柄概要
1	テスラ	自動車・自動車部品	米国	8.6%	高性能電気自動車と電気自動車パワートレイン部品の設計・製造・販売会社。独自の販売網を保有し、電気パワートレイン部品を他の自動車メーカーに販売する。世界各地で事業を展開。
2	アルファベット	メディア・娯楽	米国	7.2%	持株会社。子会社を通じ、ウェブベースの検索、広告、地図、ソフトウエア・アプリケーション、モバイルオペレーティングシステム、消費者コンテンツ、業務用ソリューション、eコマース、ハードウエア製品などを提供する。
3	NXPセミコンダクターズ	半導体・半導体製造装置	オランダ	4.4%	半導体メーカー。移動体通信、消費者電子製品、セキュリティ・アプリケーション、自動車内の娯楽機器、ネットワーキング用の半導体とソフトウエアを設計する。自動車、識別、ワイヤレス通信インフラ、照明、携帯機器、コンピューター・アプリケーション用の製品を提供。
4	エヌビディア	半導体・半導体製造装置	米国	4.1%	3次元（3D）グラフィックスプロセッサーと関連ソフトウエアの設計・開発・販売会社。同社の製品は、主要パソコン向けに双方向3Dグラフィックスを提供する。
5	アップル	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	米国	3.9%	パソコン、関連製品、モバイル通信機器、各種関連ソフトウエア、サービス、周辺機器、ネットワーキング・ソリューションの設計、製造、販売に従事。製品は、自社オンラインストア、直営小売店、自社販売員、サードパーティ卸売り、再販業者を通して販売される。
6	オン・セミコンダクター	半導体・半導体製造装置	米国	3.8%	半導体メーカー。データ管理および電力管理用のアナログ、標準ロジック、および単機能半導体を供給。ICおよびアナログICなどの製品を提供するほか、さまざまな表面実装および標準パッケージの単機能半導体も提供する。
7	マイクロソフト	ソフトウェア・サービス	米国	3.8%	ソフトウエアメーカー。ソフトウエア製品の開発、製造、ライセンス供与、販売、サポートに従事。オペレーティングシステム、サーバー・アプリケーション、法人・個人向けアプリケーションのソフトウエア、ソフトウエア開発ツール、およびインターネット／イントラネットソフトウエアを手掛ける。テレビゲーム機、デジタル音楽・娯楽用機器も開発する。
8	クアルコム	半導体・半導体製造装置	米国	3.6%	多国籍半導体・通信機器メーカー。CDMAデジタル技術を基に、デジタルワイヤレス通信製品およびサービスを開発、販売する。世界各地で事業を展開。
9	ウルフスピード	半導体・半導体製造装置	米国	3.5%	半導体製品メーカー。高電力およびRF用途向けに炭化ケイ素とGaNソリューションを提供する。世界各地で事業を展開。
10	エンフェーズ・エナジー	半導体・半導体製造装置	米国	3.2%	太陽エネルギー機器メーカー。家庭用・商業用の太陽光および貯蔵ソリューションを提供する。米国で事業を展開。

※マザーファンドの純資産総額に対する比率です。
※外国銘柄の日本語表記、業種、銘柄概要は、Bloombergを参照しています。
※国・地域は発行国で表示しています。

岡三アセットマネジメント

次世代モビリティオープン（為替ヘッジあり）／（為替ヘッジなし）

追加型投信／内外／株式

次世代モビリティマザーファンドの状況（2）

＜株式組入上位10業種＞

業種	比率
半導体・半導体製造装置	32.8%
自動車・自動車部品	29.0%
ソフトウェア・サービス	11.2%
メディア・娯楽	8.2%
テクノロジー・ハードウェアおよび機器	6.4%
素材	2.5%
小売	1.9%
資本財	1.9%
運輸	1.8%
電気通信サービス	0.5%

＜株式組入上位10ヵ国＞

国・地域	比率
米国	68.3%
オランダ	9.6%
ドイツ	4.0%
日本	3.4%
英領ジャージー	3.0%
スイス	2.6%
中国	1.6%
カナダ	1.5%
韓国	1.3%
ケイマン諸島	1.1%

※各比率はマザーファンドの純資産総額に対する比率です。
※国・地域は発行国で表示しています。

ファンドマネージャーのコメント

＜投資環境と今後の見通し＞

7月の世界株式市場は下落しました。13日に発表された6月の米消費者物価指数（CPI）が上振れしたため、月末の米連邦公開市場委員会（FOMC）での大幅な利上げが懸念され、中旬に下落する場面がありました。その後は、米長期金利の上昇が頭打ちとなったことや、FOMCの内容に大きなサプライズがなかったことなどから、月末にかけて反発しました。

モビリティ関連銘柄は、主要企業が好決算を発表したテクノロジー・ハードウェア株や、半導体・半導体製造装置株が上昇しました。また、大手電気自動車メーカーが堅調な業績を発表したことから、自動車・自動車部品株も市場をアウトパフォームしました。一方、ソーシャル・ネットワーキング・サービス株の冴えない業績が嫌気され、メディア・娯楽株は市場をアンダーパフォームしました。

為替市場では、円が米ドルやユーロなどに対して上昇する円高の動きとなりました。このため、「為替ヘッジあり」の基準価額騰落率は、「為替ヘッジなし」の基準価額騰落率を上回りました。

今後の世界株式市場は、夏季休暇による市場参加者の減少が想定される中、もみ合いの展開が続くと予想されます。重要イベントとしては、25～27日に米ワイオミング州ジャクソンホールで開催される経済政策シンポジウム（ジャクソンホール会議）が挙げられます。米連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長も出席する予定であり、どのような議論がなされるかが注目されます。その後、年末から2023年にかけては、インフレ率が低下し、金融引き締めの終了を織り込む動きになると考えられ、株価は反発に転じると想定されます。

モビリティ関連銘柄については、景気減速による個人消費の減速が懸念される一方、半導体・半導体製造装置株を中心に供給制約の緩和が業績に追い風になると考えられ、相対的に底堅い値動きが予想されます。

＜運用経過と今後の運用方針＞

7月の運用は、自動車・自動車部品株や半導体・半導体製造装置株、及びソフトウェア・サービス株を高位にウェイト付けしたポートフォリオで運用しました。投資行動としては、半導体・半導体製造装置株の買付けを行った一方、素材株の一部を売却しました。

今後の運用方針は、ファンドの基本方針に基づき、TCWインベストメント・マネジメント・カンパニーからの投資助言を参考に、投資環境や業績動向などを勘案して銘柄選別を行います。モビリティ分野の成長が株価の上昇要因になると判断される自動車・自動車部品株や、半導体・半導体製造装置株を高位にウェイト付けする方針です。また、株価バリュエーション面での割安感が大きいと判断される資本財株の買付けを検討します。

※ 今後の運用方針等は、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。また、市場環境等についての評価、分析等は、将来の運用成果を保証するものではありません。

ファンド情報

設　定　日	2018年3月27日
償　還　日	2028年3月10日
決　算　日	毎年3月10日（休業日の場合は翌営業日）

ファンドの特色（1）

1 主として日本を含む世界の取引所上場株式（上場予定、DR（預託証券）を含みます。）のなかから、次世代モビリティに関連する企業※の株式に投資を行います。

- 実際の運用は次世代モビリティマザーファンド（以下、「マザーファンド」といいます。）を通じて行います。

※次世代モビリティに関連する企業とは、人・モノの移動に関連する幅広い分野で新規性・成長性の高い事業に取り組み、事業の実現性や収益成長が見込まれる企業とします。

DR（預託証券）とは

自国以外で株式発行会社の株式を流通させるために、その発行会社の株式を銀行などに預託し、その代替として自国以外で発行される証券をいいます。

2 投資候補銘柄の選定にあたっては、次世代モビリティに関連する技術、製品、事業モデルの革新性、企業の成長性、収益性等に着目します。

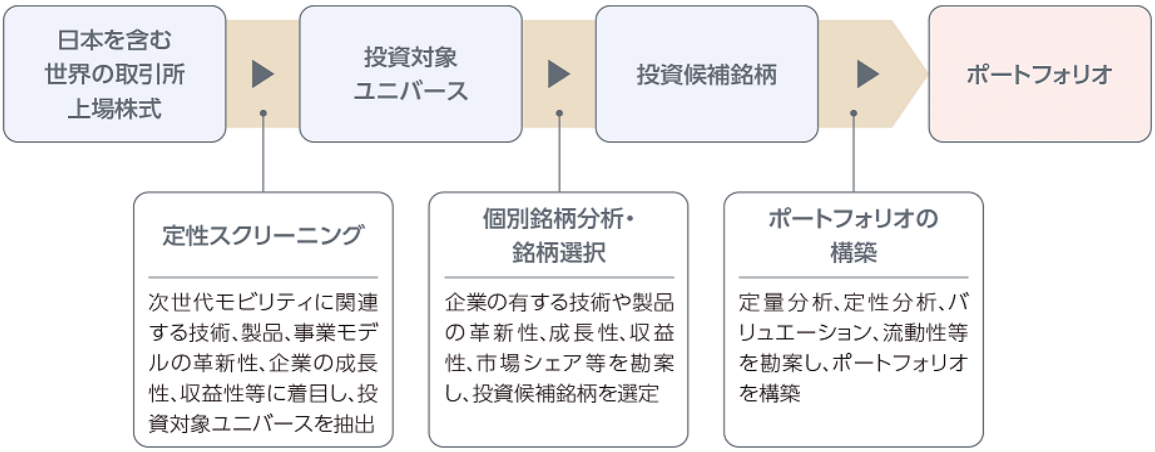
3 ポートフォリオ構築にあたっては、定量分析、定性分析、バリュエーション、流動性等を勘案して行います。

ファンドの特色（2）

「次世代モビリティマザーファンド」のポートフォリオ構築プロセス

1）日本を含む世界の取引所上場株式の中から定性スクリーニングを行い、投資対象ユニバースを抽出します。
2）当社独自の調査や投資助言の情報に基づいて個別銘柄の分析を行い、投資候補銘柄を選定します。
3）投資候補銘柄から、個別銘柄の分析結果を勘案してポートフォリオの構築を行います。

なお、投資環境や個別銘柄に関して、TCWインベストメント・マネジメント・カンパニーから助言を受けます。



※ポートフォリオ構築プロセスは変更になる場合があります。
※投資助言者、投資助言の内容、投資助言の有無については、変更する場合があります。

TCWインベストメント・マネジメント・カンパニーは、米国TCW Group傘下の運用部門として株式や債券といった伝統資産からオルタナティブ運用まで幅広く手掛ける独立系運用会社です。

4 株式の実質組入比率は高位を保つことを基本とします。

5 「為替ヘッジあり」、「為替ヘッジなし」2つのファンドから選べます。

次世代モビリティオープン（為替ヘッジあり）

実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を目指します。一部の通貨について、他の通貨で代替した為替ヘッジを行うことがあります。

次世代モビリティオープン（為替ヘッジなし）

実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

ファンドの特色（3）

分配方針

毎年3月10日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、原則として、以下の方針に基づき、収益分配を行います。

- 分配対象収益の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。繰越分を含めた配当等収益には、マザーファンドの配当等収益のうち投資信託財産に帰属すべき配当等収益を含むものとします。
- 分配金額は、委託会社が分配可能額、基準価額水準等を勘案して決定します。ただし、必ず収益分配を行うものではありません。

※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

投資リスク（1）

基準価額の変動要因

投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益及び損失は、すべて投資者の皆さまに帰属します。
ファンドは、国内外の株式等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替相場の変動により損失を被ることがあります。

主な変動要因

株価変動リスク

株式の価格は、発行会社の業績や財務状況、株式市場の需給、政治・経済状況等の影響により変動します。

為替変動リスク

<為替ヘッジあり>

外貨建資産は、為替相場の変動により円換算額が変動します。投資対象通貨に対する円高により、外貨建資産の円換算額は減少し、円安により、外貨建資産の円換算額は増加します。
実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を目指しますが、為替ヘッジの対象となる外貨建資産は市況動向により変動することから、為替変動リスクを完全にヘッジすることはできません。また、他通貨による為替ヘッジを行う場合には、為替変動リスクが一部残ります。

<為替ヘッジなし>

外貨建資産は、為替相場の変動により円換算額が変動します。投資対象通貨に対する円高により、外貨建資産の円換算額は減少し、円安により、外貨建資産の円換算額は増加します。

信用リスク

有価証券等の発行体の破綻や財務状況の悪化、および有価証券等の発行体の財務状況に関する外部評価の変化等の影響により、投資した有価証券等の価格が大きく下落することや、投資資金が回収不能となることがあります。

その他の変動要因

流動性リスク、カントリーリスク

※基準価額の変動要因は上記のリスクに限定されるものではありません。

投資リスク(2)

その他の留意点

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取り扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金申込の受付が中止となる可能性、換金代金の支払が遅延する可能性があります。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。
- ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。ファンドが投資対象とするマザーファンドを他のベビーファンドが投資対象としている場合に、当該他のベビーファンドにおいて追加設定および一部解約等がなされた場合には、その結果として、マザーファンドにおいても売買等が生じ、ファンドの基準価額が影響を受けることがあります。

お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位 ※詳しくは販売会社にご確認下さい。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
購入代金	販売会社の定める期日までにお支払い下さい。 ※詳しくは販売会社にご確認下さい。
換金単位	販売会社が定める単位 ※詳しくは販売会社にご確認下さい。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
換金代金	換金申込受付日から起算して、原則として5営業日目から販売会社を通じてお支払いします。
申込締切時間	原則として、午後3時までとし、販売会社所定の事務手続きが完了した場合に、当日の受付として取り扱います。
換金制限	ありません。
購入・換金申込不可日	以下に該当する日は、購入・換金申込の受付を行いません。 ・ニューヨークの取引所の休業日 ・ロンドンの取引所の休業日
購入・換金申込受付の中止及び取消し	取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込の受付を中止することや、すでに受付けた購入・換金申込の受付を取消すことがあります。
スイッチング（乗換え）	各ファンド間でのスイッチングが可能です。 ※スイッチングの取扱いは、販売会社によって異なります。詳しくは販売会社にご確認下さい。
信託期間	2028年3月10日まで（2018年3月27日設定） ただし、投資者に有利である場合等は、信託期間を延長することがあります。
繰上償還	各ファンド受益権口数が5億口を下回ることとなった場合、やむを得ない事情が発生した場合等には繰上償還となることがあります。
決算日	毎年3月10日（休業日の場合は翌営業日）
収益分配	年1回、収益分配方針に基づいて収益の分配を行います。 「分配金再投資コース」の場合、収益分配金は、税金を差し引いた後、決算日の基準価額で再投資します。
信託金の限度額	各ファンド5,000億円
公告	原則として、電子公告の方法により行い、次のアドレスに掲載します。 https://www.okasan-am.jp
運用報告書	毎決算時および償還時に交付運用報告書を作成し、販売会社を通じて交付します。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
購入時手数料	購入金額（購入価額×購入口数）に、販売会社が独自に定める購入時手数料率を乗じて得た額 **購入時手数料率の上限は、3.3%（税抜3.0%）です。** 購入時手数料率は変更となる場合があります。 各ファンド間でのスイッチング（乗換え）により、同一の販売会社でファンドを買付ける場合には、購入時手数料の一部または全部の割引を受けられる場合があります。詳しくは販売会社にご確認下さい。	ファンドの商品説明および販売事務手続き等の対価として販売会社に支払われます。
信託財産留保額	**ありません。**	
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
運用管理費用（信託報酬）	**純資産総額×年率1.804%（税抜1.64%）**	

配分			
	委託会社	年率1.00%（税抜）	委託した資金の運用の対価です。
	販売会社	年率0.60%（税抜）	運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価です。
	受託会社	年率0.04%（税抜）	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価です。

その他費用・手数料	監査費用:純資産総額×年率0.0132%（税抜0.012%） 有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、海外における資産の保管等に要する費用、受託会社の立替えた立替金の利息、借入金の利息等を投資信託財産でご負担いただきます。なお、マザーファンドの当該費用につきましては、間接的にご負担いただきます。 ※運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。

※運用管理費用（信託報酬）、監査費用は日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了のときに投資信託財産から支払われます。その他費用・手数料（監査費用を除きます。）はその都度、投資信託財産から支払われます。

※ファンドに係る手数料等につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。

委託会社および関係法人の概況

委　託　会　社　　岡三アセットマネジメント株式会社　（ファンドの運用の指図を行います。）

金融商品取引業者　関東財務局長（金商）第370号
加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

受　託　会　社　　株式会社りそな銀行　（ファンドの財産の保管及び管理を行います。）

販売会社について

受益権の募集の取扱い、投資信託説明書（交付目論見書）、投資信託説明書（請求目論見書）及び運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金及び解約金の支払事務等を行います。なお、販売会社には取次証券会社が含まれる場合があります。

商号	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
（金融商品取引業者）					
岡三証券株式会社	関東財務局長（金商）第53号	○	○	○	○
アーク証券株式会社	関東財務局長（金商）第1号	○			
阿波証券株式会社	四国財務局長（金商）第1号	○			
岩井コスモ証券株式会社	近畿財務局長（金商）第15号	○		○	
臼木証券株式会社	関東財務局長（金商）第31号	○			
永和証券株式会社	近畿財務局長（金商）第5号	○			
auカブコム証券株式会社	関東財務局長（金商）第61号	○	○	○	○
株式会社SBI証券	関東財務局長（金商）第44号	○		○	○
寿証券株式会社	東海財務局長（金商）第7号	○			
篠山証券株式会社	近畿財務局長（金商）第16号	○			
三縁証券株式会社	東海財務局長（金商）第22号	○			
島大証券株式会社	北陸財務局長（金商）第6号	○			
株式会社証券ジャパン	関東財務局長（金商）第170号	○			
*荘内証券株式会社	東北財務局長(金商)第1号	○			
新大垣証券株式会社	東海財務局長（金商）第11号	○			
大熊本証券株式会社	九州財務局長（金商）第1号	○			
大山日ノ丸証券株式会社	中国財務局長（金商）第5号	○			
東海東京証券株式会社	東海財務局長（金商）第140号	○		○	○
東武証券株式会社	関東財務局長（金商）第120号	○			
内藤証券株式会社	近畿財務局長（金商）第24号	○			○
フィデリティ証券株式会社	関東財務局長（金商）第152号	○	○		
*益茂証券株式会社	北陸財務局長（金商）第12号	○		○	
松井証券株式会社	関東財務局長（金商）第164号	○		○	
丸八証券株式会社	東海財務局長(金商)第20号	○			
三木証券株式会社	関東財務局長（金商）第172号	○			
楽天証券株式会社	関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○
愛媛証券株式会社	四国財務局長（金商）第2号	○			
三晃証券株式会社	関東財務局長（金商）第72号	○			
JIA証券株式会社	関東財務局長（金商）第2444号	○			○
野畑証券株式会社	東海財務局長（金商）第18号	○			○
（登録金融機関）					
*株式会社神奈川銀行	関東財務局長（登金）第55号	○			
株式会社富山銀行	北陸財務局長（登金）第1号	○			
PayPay銀行株式会社	関東財務局長（登金）第624号	○		○	

※岡三証券株式会社は、一般社団法人日本暗号資産取引業協会にも加入しております。
*荘内証券株式会社は、「為替ヘッジなし」のみの取扱いとなります。
*益茂証券株式会社は、「為替ヘッジなし」のみの取扱いとなります。
*株式会社神奈川銀行は、「為替ヘッジなし」のみの取扱いとなります。

ご注意

- 本資料は岡三アセットマネジメント株式会社が作成した販売用資料です。購入の申込みに当たっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いします。投資信託説明書（交付目論見書）の交付場所につきましては「販売会社について」でご確認ください。
- 本資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。
- 本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 本資料は当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。